

# 米CPIはFRBの更なる利上げペース減速を示唆



シニア・ストラテジスト 石黒英之

## ポイント① 米CPIは6か月連続で伸びが鈍化

1月12日に米労働省が発表した昨年12月の米CPIは、前年同月比6.5%の上昇（市場予想通り）となり、6か月連続で伸びが鈍化しました（右上図）。また、エネルギーと食品を除いた米コアCPIの上昇率も同5.7%と前月の同6.0%から縮小しました。今回の米CPIでは物価上昇圧力の鈍化が続いていることが示され、FRB（米連邦準備制度理事会）にとって利上げペースを更に落とす余地が生まれたといえます。

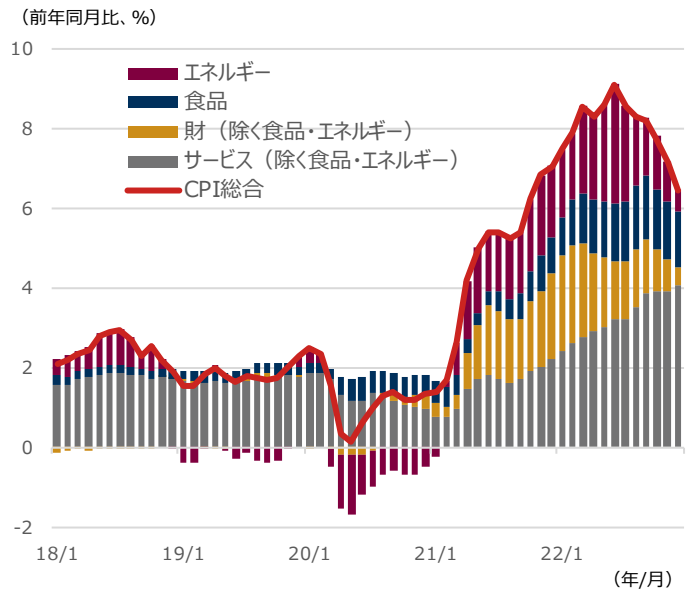
12日の米国市場では、米金融政策の影響を受けやすい米2年国債利回りが昨年10月以来の水準にまで低下したほか、ハイテク株主体で構成されるNASDAQ100が昨年7月以来となる5営業日続伸となりました。市場はFRBの早期利上げ停止を意識しつつ、再びリスク選好姿勢を強めているようにみえます。

## ポイント② 引き続き米雇用や賃金動向が焦点

米インフレ動向をみる上で今後焦点となるのは、米サービス価格に影響を及ぼす米賃金の動向です。ニューヨーク連銀が公表しているビジネスリーダーサーベイでは、半年後の雇用が一時期と比べ大きく鈍化し、賃金についても上昇圧力が和らぐ結果となっており、賃金インフレを主因とした米サービス価格の上昇が今後一巡する可能性があります（右下図）。

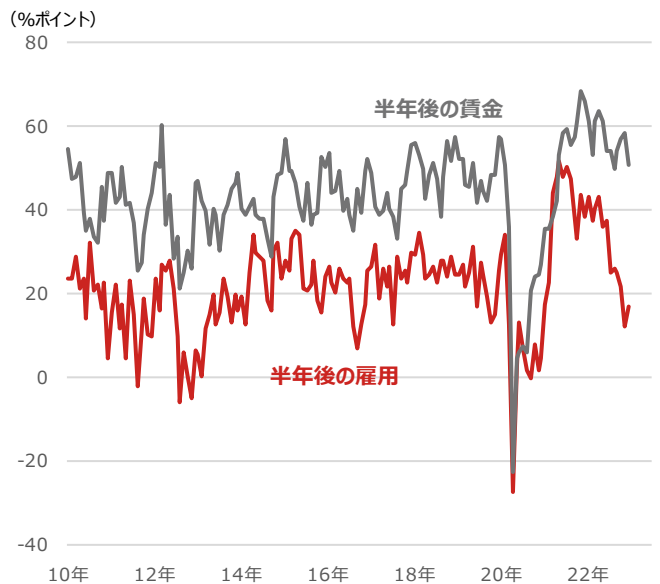
先日発表された昨年12月の米雇用統計でも、平均時給の前年同月比が4.6%増と21年8月以来の水準にまで伸びが縮小するなど、米インフレ圧力が一段と和らいでいく可能性を示唆しています。これらを踏まえると、米国の利上げは最終局面を迎えつつあるといえそうです。

## 米CPI（消費者物価指数）とその内訳



期間：2018年1月～2022年12月、月次  
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

## NY連銀ビジネスリーダーサーベイ



期間：2010年1月～2022年12月、月次  
・当指数は拡大から縮小を差し引いた数値で、サービス企業の景況感を示す  
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

\*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。